

学校だより



平成27年10月1日

横浜市立二谷小学校
校長 渡邊 文子

理解するということ～ understand～

学校長 渡邊文子

「わあ、本当にうさぎがいる！」

「かにも見える！」



野島宿泊体験学習の夜、雲間から顔を出した美しい月を見た3年生から声があがりました。「自分の泊まる部屋から月が見えるといいなあ。」というつぶやきも聞こえてきます。当日は、ちょうど中秋の名月。午前中に見学した「こども宇宙科学館」で、昔の人は月の模様を見て兎の餅つきを想像したり、かにを想像したりしたという話を聞いたばかりでした。その話を思い出しながら、子どもたちはじっと月を見つめています。穏やかな月の光を浴びながら空を見上げる表情は、とても素敵でした。二谷小の子どもたちの、美しいものを感じ、美しいものに憧れる心を感じさせられたひとときでした。

立待月、居待月、寝待月、十三夜、十六夜等々、月の呼び方はいろいろあります。月を身近に感じ愛でる気持ち、自然の移ろいを細やかに感じる繊細な感性が私たちの中に流れているということでしょう。

ところで、「理解する」ということを英語で「understand (アンダースタンド)」と言いますが、その語源にまつわる話を以前聞いたことがあります。アンダースタンドという言葉の語源は、アンダーにスタンドする、つまり「下に立つ」ということだそうです。「下に立つ」ということですから、自分本位ではなく、謙虚な気持ちをもつこと、それが本当の理解につながるということのようです。親子や友人同士等の、日常の人と人との様々な関係の中で生かされる考え方でもあります。人の心を理解することは、難しいことです。けれども、相手の立場を思いやり謙虚に学ぼうとしたりする気持ちで接したときに、人は心を開いてくれ、相手の心にふれることができるのかもしれない。6年生が腰をかがめて1年生に寄り添いながら「ふんふん」と話を聞いている場面をよく目にします。こんな仕草も、アンダースタンドの気持ちにつながるにちがいありません。

月や身の回りの自然に対する細やかな感性は、相手を慮る謙虚な接し方にも通じるような気がします。相手への思いやりと謙虚さ。学校でも家庭でも、大切に育てたい人間関係を築く基本です。

間もなく前期が終了します。子どもたちの頑張ったことや成長したことを認め、さらなる成長につなげていきたいと思えます。前期の教育活動に対する様々なご協力に感謝申し上げます。